

元新道小学校跡地を活用した事業提案について



「街の記憶の継承」と「新たな共存価値」の創造

新道地域においては、「新道小学校」と「宮川町歌舞練場」が共存し、地域の歴史と文化を守り続けてきました。



街の記憶の継承

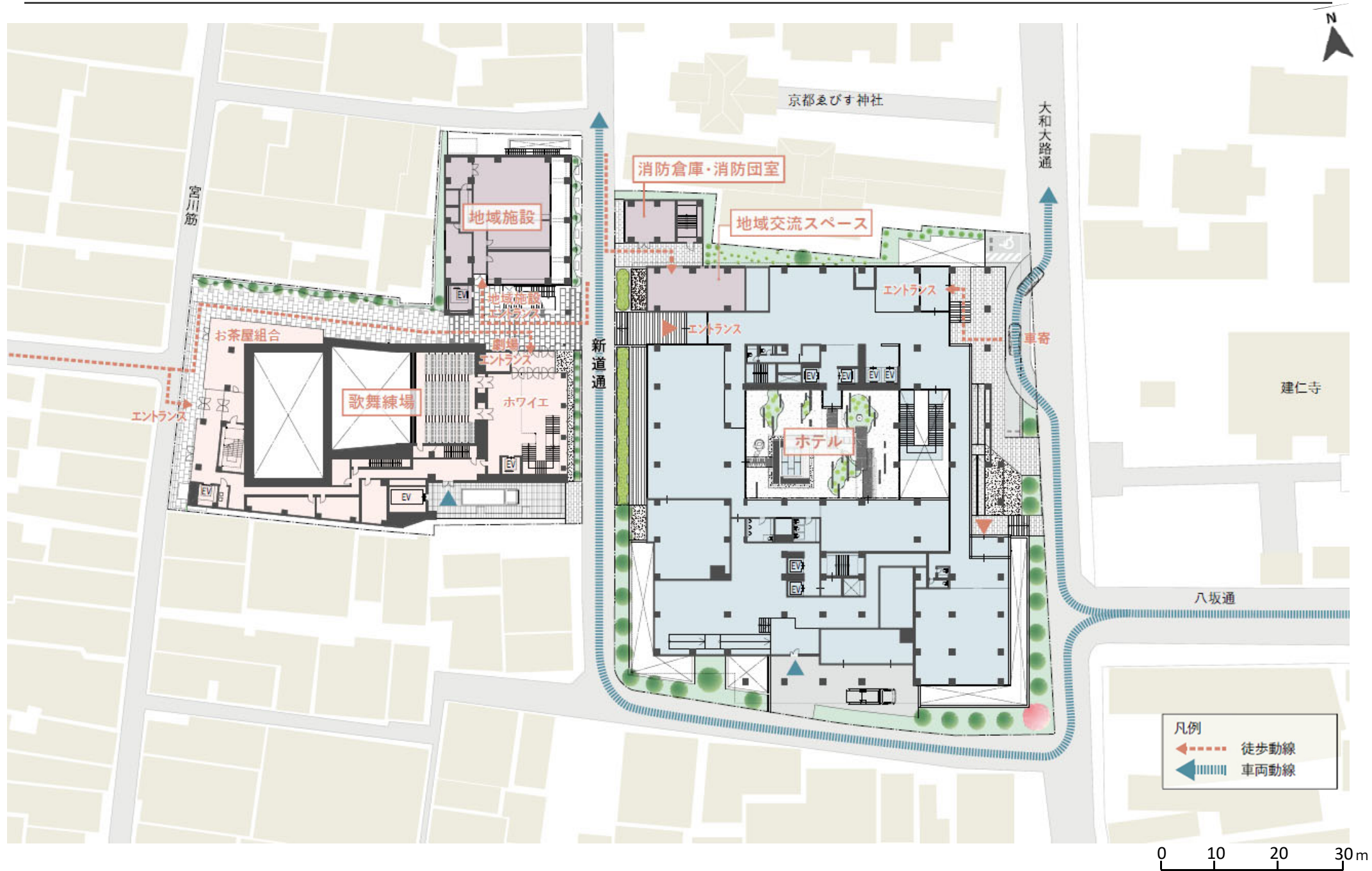
- 新道小学校は、歴史と風情のある町並みを継承する宿泊施設として新築。
- 花街「宮川町」の象徴である歌舞練場を建替え、地域施設とともに新築。
- 「大屋根」を保存することで街のシンボルを継承。
※今後、景観等の特例許可が必要

新たな共存価値

- 歌舞練場敷地と宿泊施設に新しい歩行者動線を設け、新道地域の回遊性向上を図る。
- 花街「宮川町」と新しい宿泊施設、そして新道地域が共存することで、次世代に向けて花街文化の価値をさらに高める。



所在地	京都府京都市東山区大和大路通四条下る四丁目小松町130番、125番1 京都府京都市東山区新道通団栗下る二丁目下柳町165番
敷地面積	宿泊施設 : 4,014.15㎡ (実測面積) 地域施設・歌舞練場 : 約2,291.14㎡
主要用途	宿泊施設、地域施設、歌舞練場



- 国内外のお客様に京都の神髄を体験していただけるような、高付加価値な宿泊施設をめざす
- 宮川町や建仁寺をはじめとする周辺の歴史的景観と調和し、伝統と格式を尊重したデザイン
- 新道通、大和大路通双方にエントランスを設け、街と宿泊施設の連携・回遊性を創出
- 災害時には一時的な避難場所としてロビーを開放する等、地域の安心安全に協力



宿泊施設側外観



東側エントランス

- 地域コミュニティの活性化を目指し、児童館、多目的ホール、備蓄倉庫等多様な機能を備えた地域施設を新設
- 災害時には避難所として多目的ホールの使用を想定し、優れた耐震性能、災害に備えた設備機能を完備
- 大雨などの災害時にも安全な防災拠点としての機能を配置



地域施設外観



多目的ホール



地域交流スペース

- 簾のファサードと歩行者専用の小路（軒下アプローチ）によりゲストをエントランスまで導く
- 簾や木羽目板、格子を採用し、宮川町の街の風景を継承する外観を構成
- 地域のシンボルとして100年以上在り続けた歌舞練場大屋根の保存を計画 ※今後、景観等の特例許可が必要
- 地上は2層とし、連続する宮川筋の茶屋様式の町家とデザインの調和をはかる



歌舞練場外観（宮川筋側）



ホワイエ